

「山梨県2010年がん罹患集計」結果概要

資料7

山梨県地域がん登録事業より

1 集計について

(1) 罹患数

2010年(平成22年)1月1日から12月31日の1年間に新たにがんと診断された県民のがんの罹患数(再発を含まない)。

(2) 集計方法

地域がん登録標準データベースシステムにより、一腫瘍一登録により実施。

多重がんについては判定規則(Recording rule)により集約し、全国モニタリング集計項目に基づく統計データを作成

(3) 集計の時期

平成25年1月31日

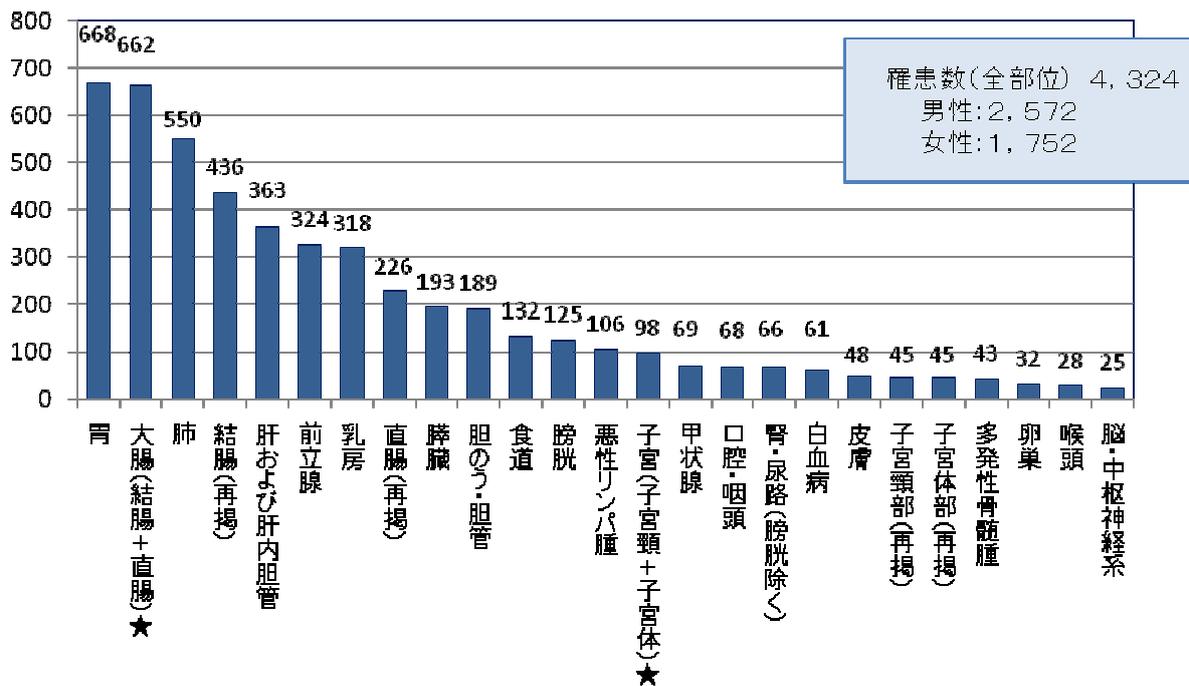
2 結果の概要

(1) 罹患数

罹患数は、4,324件(男性2,572件、女性1,752件)で、部位別では、図1のとおり、「胃」668件、「大腸」662件、「肺」550件、「肝及び胆管内胆管」363件、「前立腺」328件、「乳房」318件の順であった。

図1

2010年山梨県がん罹患数(上皮内がんを除く)(件)



これまでの3年間の罹患数は表1のとおりで、2010年の罹患数を2009年と単純に比較すると、1,275件減少しており、男性では688件、女性では587件の減少がみられた。

部位別の罹患数、罹患割合は表2のとおりで、2009年との比較により減少が著しいのは、「胃」195件減、「大腸」179件減、「乳房」165件減、「前立腺」161件減であった。

罹患数は減少しているが、部位別の全罹患数に占める割合は、2009年と比較すると「肺」が1.2%の増、「前立腺」「乳房」がそれぞれ1.2%の減となっているが、その他の部位では2009年と大きな変化はなく、各部位の占める割合に変わりはない。

表1 罹患数

罹患数		2008年	2009年	2010年
総罹患数		5,755	5,599	4,324
内訳	男性	3,366	3,260	2,572
	女性	2,389	2,339	1,752

表2 部位別罹患数・罹患割合

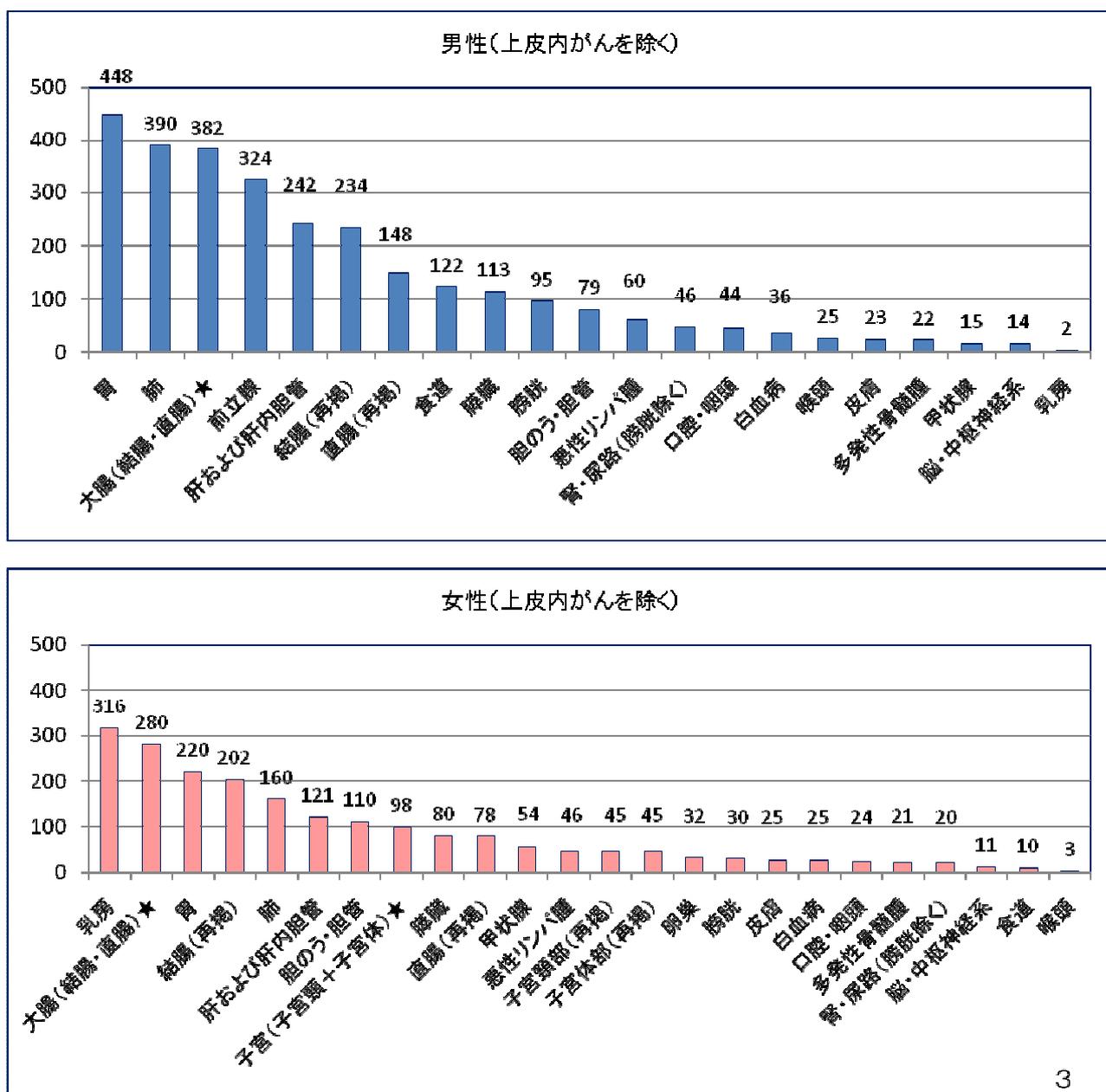
	2008年		2009年		2010年	
	部位	罹患数(割合)	部位	罹患数(割合)	部位	罹患数(割合)
1位	大腸	918 (16.0%)	胃	863 (15.4%)	胃	668 (15.4%)
2位	胃	859 (14.9%)	大腸	841 (15.0%)	大腸	662 (15.3%)
3位	肺	676 (14.3%)	肺	646 (11.5%)	肺	550 (12.7%)

男女別の罹患数は、図2のとおり。

男性は、「胃」448件、「肺」390件、「大腸」382件、「前立腺」324件、「肝および肝内胆管」242件の順であった。2009年の罹患数と単純に比較すると、「前立腺」161件減少、「胃」115件減少、「大腸」86件減少となっている。

女性は、「乳房」316件、「大腸」280件、「胃」220件、「肺」160件、「肝および管内胆管」121件の順であった。2009年の罹患数と単純に比較すると、「乳房」164件減少、「大腸」93件減少、「胃」80件減少となっている。

図2 男女別がん罹患数



(2) 年齢階級別罹患数

年齢別の罹患数及び割合は、図3、4のとおりで、60歳以上が、3,659件で全年齢の84.6%を占め、就労年齢の多い20-59歳は、659件で、割合は15.3%となっている。

男性では、60歳以上が、2,273件、88.4%、20-59歳が、294件、11.4%となっている。

女性では、60歳以上が、1,386件、79.1%、20-59歳が、365件、20.8%となっている。

男女別・部位別の罹患数は、図5のとおりで、20-59歳では、女性の罹患数が男性を上回っており、女性の罹患数を部位別にみると、乳がんが136件で、全罹患数の37.3%を占めている。

図3 年齢別罹患数

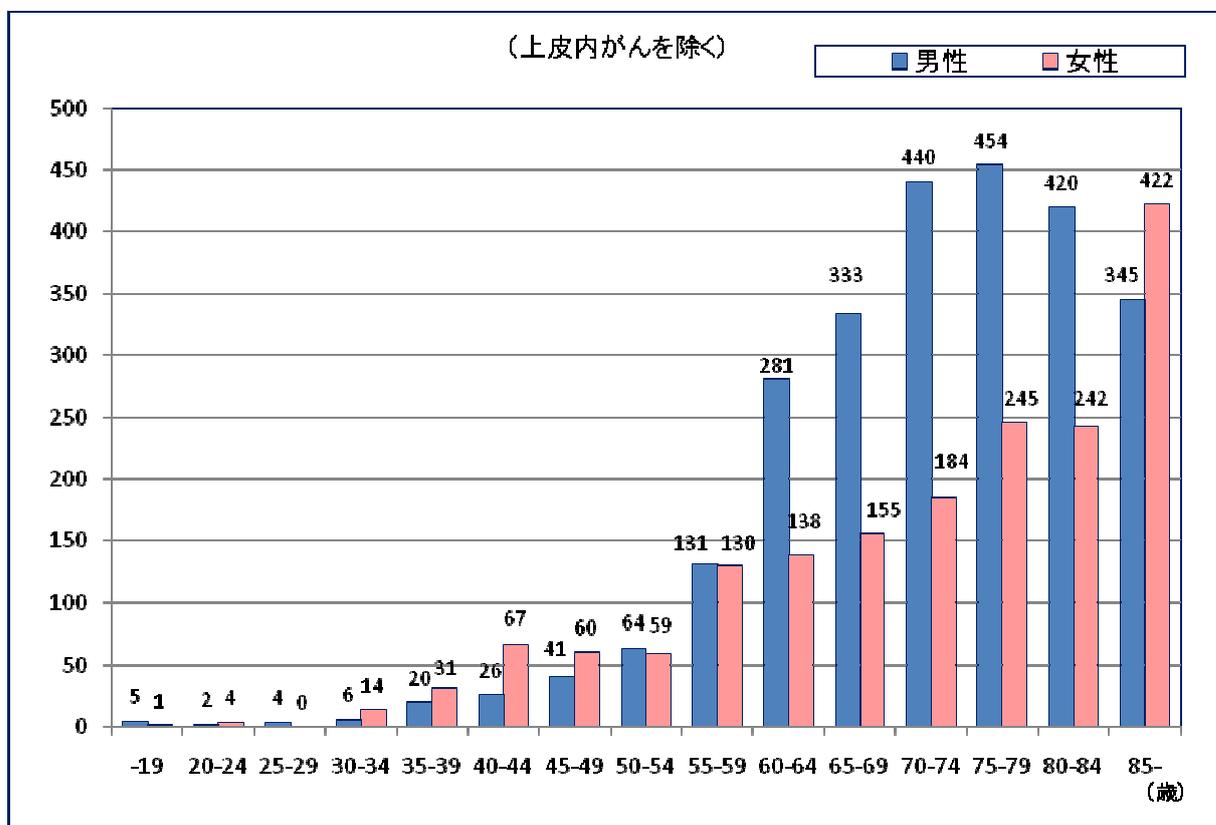


図4 年齢別罹患割合

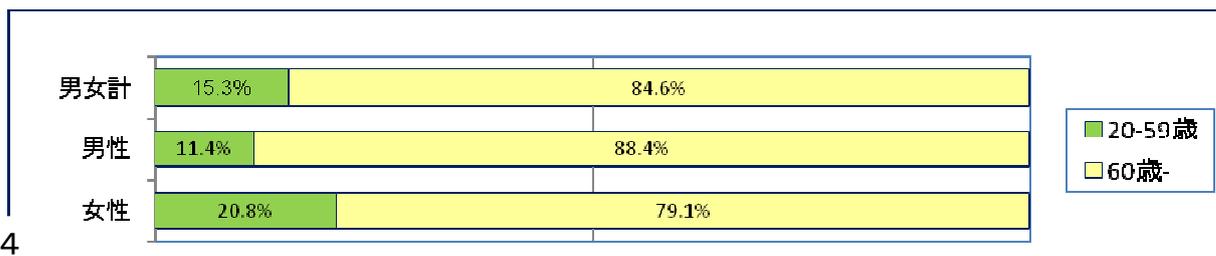
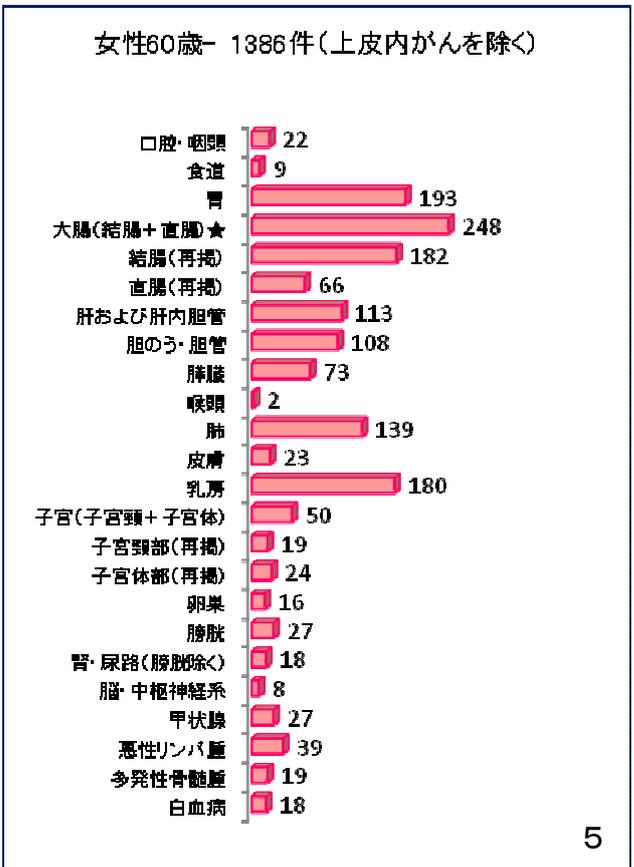
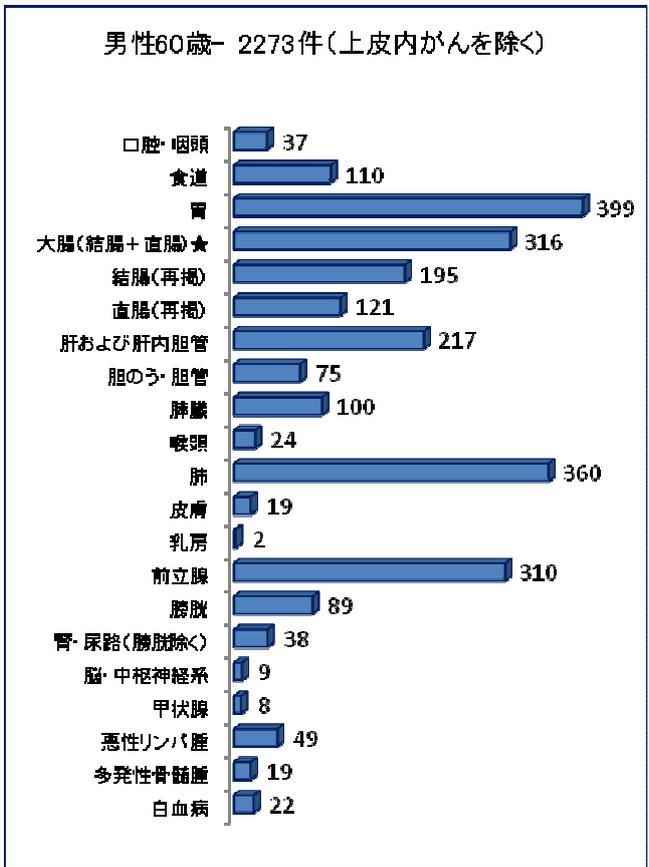
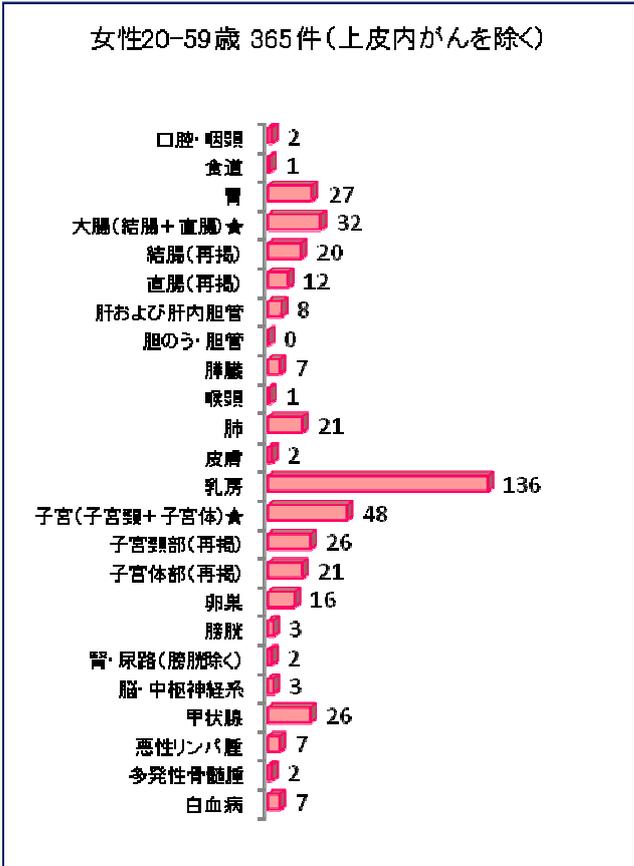
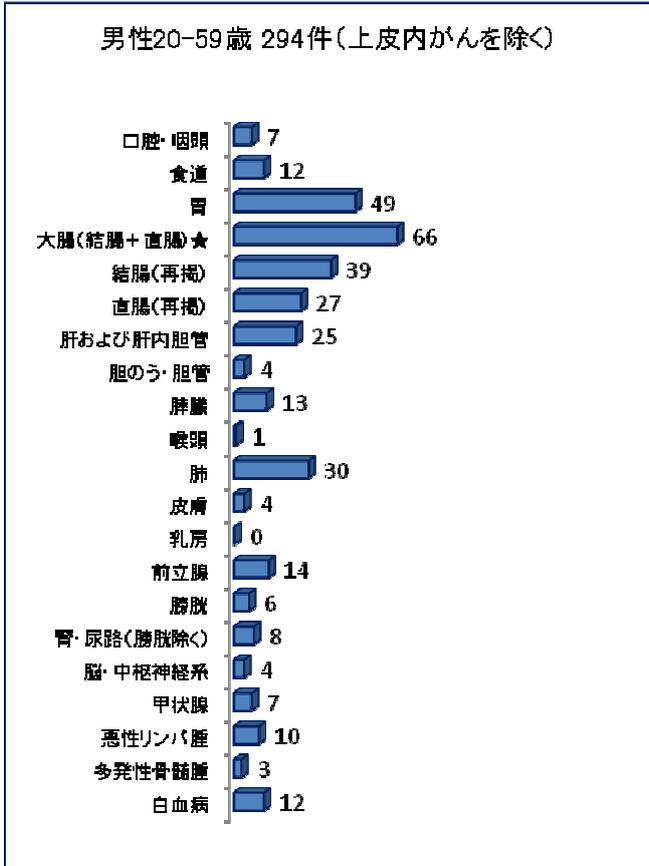


図5 男女別・部位別罹患数



(3) 年齢階級別罹患率

年齢階級別罹患率は図6-1のとおり、男性は50歳代後半から急激に上昇し、その後も加齢に伴い上昇する。

女性は、乳がん及び子宮頸がんの罹患が、20歳代、30歳代から高くなることから、20歳～40歳代後半までは、男性より罹患率が高いが、50歳代後半で男性の罹患率と交差し、その後は緩やかに増加する。

臓器別にみると、図6-2、6-3のとおり、男性は、50歳代後半からどの臓器の罹患率も増加しているのに対し、女性は子宮頸がんが20歳代前半から罹患率が上昇し、40歳代前半がピークとなる。

また、乳がんは30歳代前半から上昇し、40歳代後半がピークを迎えるなど、若い世代に罹患率が高い特徴がある。

図6-1 年齢階級別罹患率(全部位)
(上皮内がんを除く)

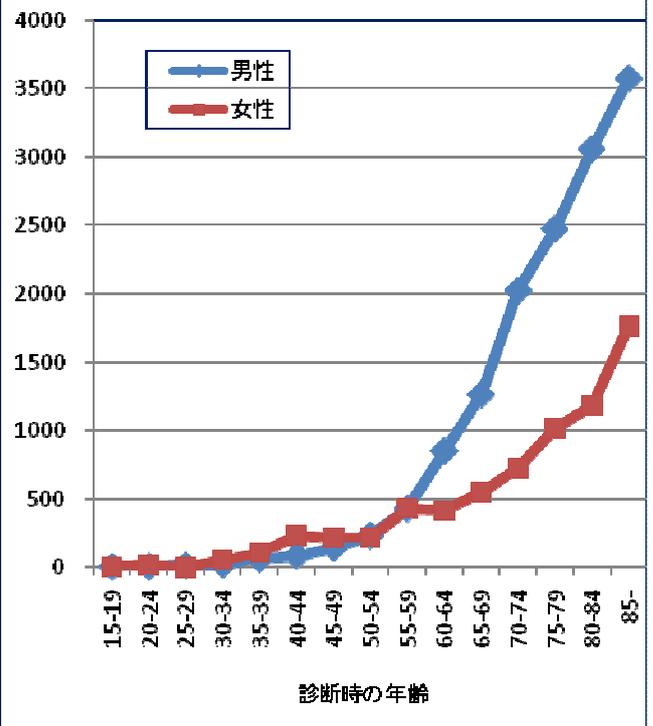


図6-2 年齢階級別罹患率(男性)
(上皮内がんを除く)

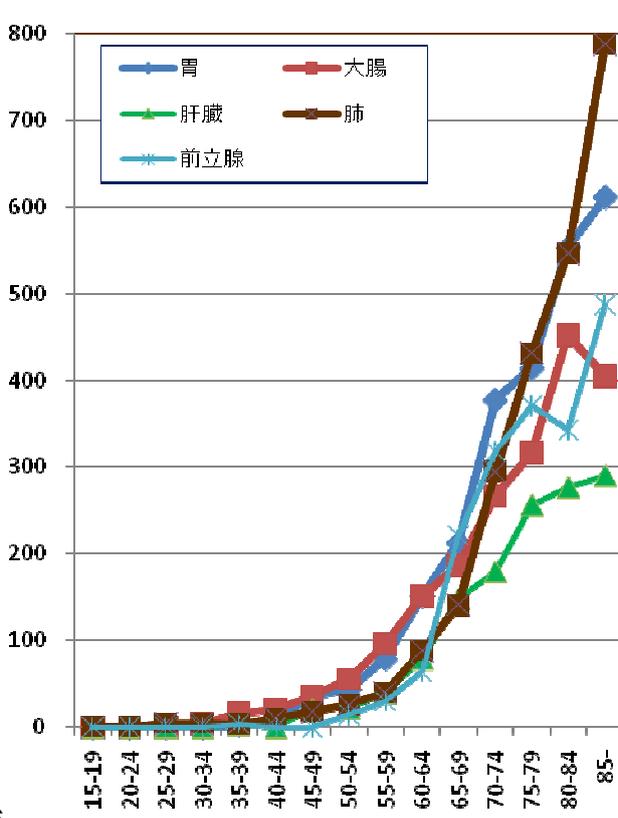
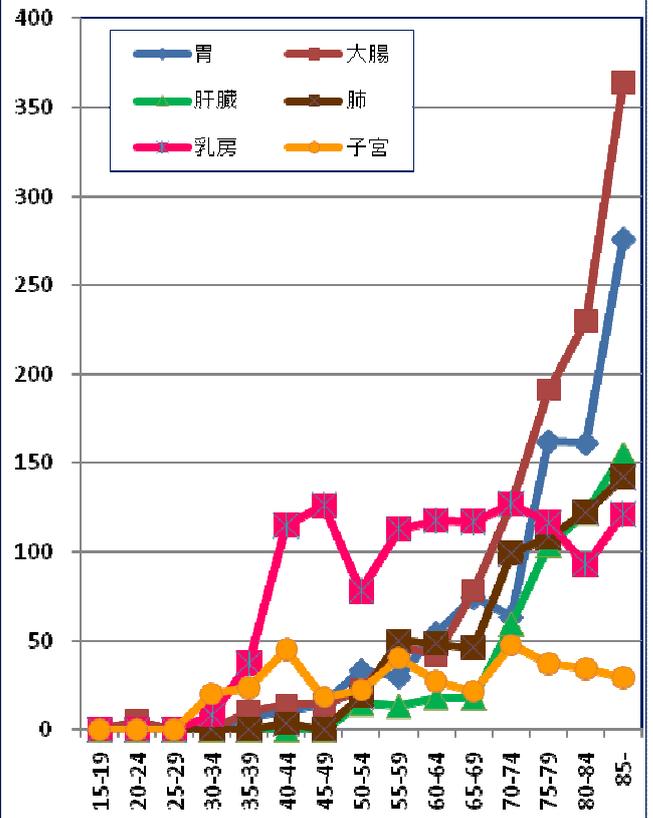


図6-3 年齢階級別罹患率(女性)
(上皮内がんを除く)



(4)臓器別発見経緯

上皮内がんを除くがんの発見経緯は、図7のとおり、全部位で「がん検診」5.6%、「健診・人間ドック」10.3%、「他疾患の経過観察中」30.7%、「その他・不明(症状受診含む)」53.4%であった。「がん検診」と「健診・人間ドック」によるものを合わせると15.9%が健診等で発見されたものであった。この健診等で発見されたものを臓器別にみると、「甲状腺」39.7%、「乳房」28.2%、「前立腺」26.4%、「子宮頸がん」23.2%、「胃」21.3%、「肺」17.4%の順であった。

上皮内がんを含む発見経緯では、図8のとおり「子宮頸がん」が41.8%で、上皮内がんを除く場合の1.8倍となっている。「乳房」でも31.6%で、上皮内がんを除く場合の1.12倍となっている。

